

栄養やまなし No. 96

公益社団法人 山梨県栄養士会 〒400-0805甲府市酒折1丁目1-11 ☎055-222-8593 平成25年1月



健康づくり提唱のつどいの開催状況

1・2・3月の行事予定

疾病の重症化予防研修会	1月26日(土)	山梨学院短期大学
栄養士研究発表会	2月9日(土)	ぴゅあ総合
生涯学習研修会	2月23日(土)	ぴゅあ総合
新任者研修会	3月2日(土)	山梨学院短期大学

目

次

新年のご挨拶

会長 田草川憲男	2
公益社団法人 山梨県栄養士会役員一同	3

案 内

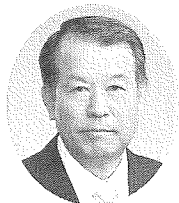
・平成24年度疾病の重症化予防のための食事指導 担当者スキルアップ研修会の開催のお知らせ	4
・平成24年度 第23回栄養士研究発表会の開催について	4
・生涯学習研修会(平成24年度 第6回目)の開催について	4
・第27回管理栄養士国家試験について	4
・特定保健指導に従事する管理栄養士の募集について	4
・平成24年度 第23回栄養士研究発表会発表要旨	5

平成24年 写真で見る山梨県栄養士会の主な活動

事業・研修会等実施報告

・出前栄養相談	8
・指導者のための健康・栄養セミナー	8
・平成24年度食生活と植物油栄養に関する講習会	8
・いきいき山梨ねんりんピック	9
・県民の日のイベントに参加しました	9
・第29回山梨県民歯科保健のつどい	9
・「平成24年度健康づくり提唱のつどい」に参加して	10
・「平成24年度疾病の重症化予防のための 食事指導活動拠点整備事業」の検討委員として	10

・JDA-DATのメンバーとして	10
・平成24年度日本精神病院協会学術教育研修会 栄養士部門を開催して	11
「私ががんばっています」	11
厚生労働大臣表彰	14
知事表彰	15
健康づくり表彰	16
職域事業部のコーナー	
学校健康教育事業部	18
公衆衛生事業部	18
研究教育事業部	19
勤労者支援事業部	19
地域活動事業部	20
医療事業部	20
福祉事業部	21
平成24年度 理事の業務分担表並びに委員会名簿	22
国民文化祭について	22
こんにちは 給食委託会社勤務の会員から	
・日清医療食品	23
・サンワフーズ	23
謹んで新年のお慶びを申し上げます 賛助会員	24
事務局からのご案内	26



新年のご挨拶

栄養士会が取り組んでいること

公益社団法人 山梨県栄養士会会長 田草川 憲男

あけましておめでとうございます。平成 25 年の新しい年にあたり、いま 栄養士会が特に取り組んでいることや管理栄養士・栄養士がしなければならないことをいくつか抜粋して、お伝えしたいと思います。今後とも、県民の皆様の健康づくりのために、専門職として科学的根拠に基づく業務を実施していきましょう。

- 1 会員数を増やし、その力で管理栄養士・栄養士の業務を多方面で活躍できるよう制度改善を進める。
特定健診・特定保健指導、栄養管理加算、栄養サポートチーム加算、栄養ケア・マネジメントの導入などにおける管理栄養士との関わりは栄養士会の取組の成果です。
- 2 疾病の重症化予防のための食事指導活動拠点整備事業
診療所における管理栄養士による栄養食事指導を進めるための働きかけと人材育成を進めています。
- 3 専門管理栄養士認定制度の創設事業
内容：「臨床栄養」、「公衆栄養」（疾病予防）、「給食経営管理」の領域における総体としての管理栄養士の業務水準を引き上げる役割を果たしうる卓越した知見と技能を持つ管理栄養士を育成する事業。
- 4 管理栄養士・栄養士の特定種類業務における専門的知識・技能の強化事業
内容：「特定保健指導担当管理栄養士」・「TNT – D（臨床栄養療法）認定管理栄養士」・「公認スポーツ栄養士」・「在宅訪問管理栄養士」など特定種類の業務に必要とされる高度の専門的知識・技能を身につけた管理栄養士・栄養士を育成する。
- 5 栄養サポートチーム担当者研修会
内容：栄養サポートチームにおいて、管理栄養士を始め、関連職種が適切にその役割を果たすことができるように、厚生労働省が指定する所定の研修を実施する。
- 6 健康日本 21（第 2 次）の推進（平成 25 ～ 34 年度）
 - 1）健康寿命の延伸と健康格差の縮小
 - 2）生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
 - 3）社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
 - 4）健康を支え、守るための社会環境の整備
 - 5）栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善及び社会環境の改善山梨県では「新・健やか山梨 21」（仮称）を策定中です。これらの健康づくり計画を県民に普及啓発し、実践者を増やす活動に会員が積極的に参加する。
- 7 毎年 市町村に出向いて、すべての市町村に行政管理栄養士の配置を陳情しています。

これらを進めるために、われわれ管理栄養士・栄養士は必要とされる専門性をエビデンスに基づいたスキルとして獲得するため、栄養士会が開催する「生涯学習研修会」「栄養士研究発表会」「各種職域事業部・支部研修会」等に参加しましょう。
健康づくりの知識は、「3 年前の話はするな 5 年前の話はウソになる」と言われています。

更にお願ひ、会費は銀行または郵便局からの「自動引き落とし制度」の手続きをお取りくださいますよう重ねてお願いいたします。職域事業部の活動費は、自動引き落とし契約者の人数に応じて計算されています。契約方法は、巻末を参考にしてください。

<クイズ：山梨県の健康増進計画「健やか山梨 21」は、どこの課が主管課ですか？>
山梨県のホームページで調べられます。答えを県栄養士会に平成 25 年 4 月 30 日までにメール（yamaei@eps4.comlink.ne.jp）でお寄せください。
平成 25 年度総会会場で正解者の中から抽選で 5 名に記念品を贈呈いたします。

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

公益社団法人 山梨県栄養士会 役職員一同

役 職 名		氏 名	勤 務 先 名
会 長		田草川 憲 男	山梨学院短期大学
副 会 長		遊 佐 渚	
		深 澤 幸 子	山梨赤十字病院
部 長 ・ 理 事	総 務 部	早 川 文 子	富士・東部保健福祉事務所
	事 業 部	平 井 美樹夫	県立北病院
	学 術 部	中 川 裕 子	山梨学院短期大学
	組 織 部	堀 口 一 美	甲府相川ケアセンター
	広 報 部	立 川 聖 子	
職 域 事 業 部 長 ・ 理 事	学校健康教育	窪 寺 ゆかり	県立かえで支援学校
	公 衆 衛 生	早 川 文 子	富士・東部保健福祉事務所
	研 究 教 育	中 川 裕 子	山梨学院短期大学
	勤 労 者 支 援	大 柴 由 紀	キープ自然学校
	地 域 活 動	立 川 聖 子	
	医 療	深 沢 幸 子	山梨赤十字病院
支 部 長 ・ 理 事	福 祉	堀 口 一 美	甲府相川ケアセンター
	中 北	武 井 さおり	特別養護老人ホーム風林荘
	峡 北	秋 山 めぐみ	
	峡 東	吉 川 順 子	特別養護老人ホーム光風園
	峡 南	柿 島 穂津美	特別養護老人ホームしもべ荘
理 事	富 士 ・ 東 部	鶴 切 聖 子	上野原市立病院
	公 衆 衛 生	堀 内 美香子	忍野村役場
	医 療	小 林 貴 子	山梨大学医学部付属病院
	地 域 活 動	福 永 千賀代	
	福 祉	守 屋 喜久代	介護老人施設コスモ
事	福 祉	土 橋 きく江	三珠保育園
	監 事	齋 藤 正 治	
監 事		大 森 光 子	大森・中込税理士事務所

平成24年度疾病の重症化予防のための食事指導担当者スキルアップ研修会のお知らせ

糖尿病等の疾患の重症化予防を目的とした食事指導の実施体制の整備を図るため、診療所等で、地域特性や個々の患者の状態に応じた指導を行うことの出来る管理栄養士・栄養士の活用促進に向けたスキルアップ等の研修会を行います。多数の方の受講をお待ちしています。

と き 平成25年1月26日(土)
9:30~15:30

ところ 山梨学院短期大学
甲府市酒折二丁目4番5号
電話 055-224-1450

申込みが必要です。詳しくは、同封の開催通知をご覧ください。

**平成24年度
第23回栄養士研究発表会の開催について**

と き 平成25年2月9日(土)
9:30~12:00

ところ ぴゅあ総合

内 容 各職域部会の代表者による研究発表8題



生涯学習研修会(平成24年度 第6回目)の開催について

と き 平成25年2月23日(土)
10:00~15:40

ところ ぴゅあ総合
講 演 10:00~11:30

演 題 地場産の食材「にじます」について

講 師 水産技術センター忍野支所
支所長 大浜 秀規

シンポジウム 12:30~15:40
「ヘルスプロモーションを考える」
シンポジスト 各事業部

第27回管理栄養士国家試験の実施について

試 験 日 平成25年3月17日(日)
願書受付期日 平成25年1月7日(月)
~1月15日(火)

厚生労働省より、受験要領・願書が山梨県栄養士会事務局に届いています。

必要の方は、郵送料として切手200円を同封して山梨県栄養士会に申し込んでください。
希望者に郵送いたします。

☆**管理栄養士資格取得後は栄養士会に、資格変更のご連絡をお願いします。会員証の資格欄を変更いたします。**

特定保健指導に従事する管理栄養士の募集について

本会は平成22年度より、特定保健指導機関として、保健指導を実施しています。

平成24年度は2医療保険者からの保健指導を160件ほど受諾し、現在実施中です。

また、平成25年1月からは、大手医療保険者の保健指導も多数予定されています。

今後も保健指導の依頼が増えることが予想されます。

このため本会は、特定保健指導に従事する管理栄養士を対象にしたスキルアップ研修会を2回開催してきました。さらに多くの管理栄養士に参加していただきたいと思っています。

つきましては、あらたに特定保健指導に興味のある管理栄養士の方は事務局にお問い合わせください。

なお、次回の研修会は、総会号でお知らせする予定です。

平成24年度(第23回)栄養士研究発表会(山梨県ミニ栄養改善学会)発表要旨

日 時 平成25年2月9日(土)
9時30分~12時
会 場 ぴゅあ総合(男女共同参画推進センター)
内 容 各職域部会より研究発表8題

学校健康教育事業部

ろう学校 廣瀬 真美

①演題:「給食時間を活用した食に関する指導の取り組み」

学校における食育を推進していく上で、学校給食の果たす役割がますます重要になってきており、給食は学校教育活動において食に関する指導を効果的に進めるための重要な教材であることが求められています。ろう学校で実践している、食べものに関する情報の提供、地場産物の活用、望ましい食習慣を身につけるための献立の工夫等、給食時間を活用した食に関する指導の内容について発表します。

公衆衛生事業部

甲州市役所 新井 孝子

②演題:「野菜をつくり、選び、食べる」をめざした食育推進活動の有用性

甲州市は、平成19年度に5年計画として「野菜・果物をつくっておいしく食べるじゃん」を合言葉に食育推進計画を策定し、市民と協働で食育を推進してきた。平成23年度、その取り組みの有用性を明らかにすることを目的とし、市内の小中学生(2,930名回収)、20歳から79歳の市民(2,212名回収)に調査を実施した。解析の結果、野菜づくりは野菜の摂取や栄養のバランスなどの食生活に重要な役割を果たしていることが明らかになった。

研究教育事業部

山梨学院短期大学 田草川 憲男

③演題:「料理カードを活用したポピュレーションアプローチのための栄養教育支援ソフトの開発」

食育啓発活動や健康関連イベントでの栄養相談において、希望者に効率よく行動変容の支援ができる食事診断ソフトの開発を目的とした。ソフトの開発にあたって設定した条件、データの入力方法、結果の出力項目や紙面構成、実際の活用状況等について紹介するとともに、会員に活用を図りたい。

勤労者支援事業部

キープ自然学校 大柴 由紀

④演題:「大学生アメリカンフットボール部の夏季合宿食事管理のその後」

昨年、同合宿期間中の食事内容及び栄養摂取状況を報告し、選手の体重変化の比較を行った。目標としていた栄養摂取状況に近い状態であったが、栄養指導の面で課題が残った。

本報では、盛り付けに工夫し、指導的内容を強化した事例を報告したい。

地域活動事業部

芦沢 恵介

⑤演題:「児童館食育事業の取り組みについて」
内容は、今年初めて児童館食育事業に参加しての感想と事業内容、自分が行った二か所(甲州市東雲児童館、双葉東児童館)の食育事業の話(エプロンシアター、野菜でビンゴなど)をし、最後に7~9歳の児童や二歳児のお母さんたちにアンケートを実施していたので、その内容・結果等ふまえて、今の食事・食の知識等の実態や事業への今後の取り組みについてなどのお話をしていきたいと思います。

医療事業部

山梨市立牧丘病院 町田 真実

⑥演題:「訪問栄養指導と在宅での多職種との連携について」

牧丘病院ではH21年7月より管理栄養士が患者様の自宅へ訪問し栄養指導を行う『訪問栄養指導』を行っています。また当院では5人の常勤医師をはじめ、薬剤師、看護師、理学療法士による訪問も行っています。今回は訪問栄養指導の活動内容と在宅での多職種との連携について発表します。

医療事業部

富士吉田市立病院 宮下 明子

⑦演題:「当院での個別対応への取り組み」

当院は、山梨東部地区において拠点病院となっており、病床数は304床、診療科は全21診療科になります。

栄養管理科では食事提供に際し、出来る限り患者個々の嗜好や摂食状況にあわせた個別対応を行なっておりますが、今回、その実態を把握するためコメント対応での内容を調査しましたので、報告致します。この調査と並行して、NST摂食嚥下チームより嚥下食の相談があり、スベラカーゼを使用した症例も報告いたします。

福祉事業部

大野山保育園 高山 有

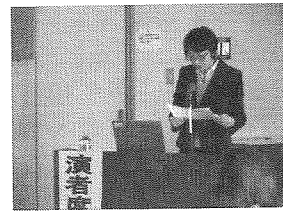
⑧演題:「保育園以外の関わりの中で育まれたもの」

普段は、保育園の栄養士として勤務しておりますが、町の要請を受け、乳児健診や健診の事後指導、また老人の引きこもりを予防するための料理教室などのお手伝いをさせていただいています。園外の仕事をする事で改めて実感した他職種との連携の大切さや栄養士の専門性を生かした住民との関わり、保育所はもちろんすべての市町村に栄養士の必置につながる一助となることを願い活動しています。

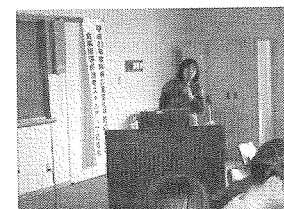
平成 24 年 写真で見る山梨県栄養士会の主な活動 (H24.1.1 ~ 12.31)



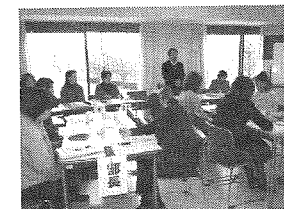
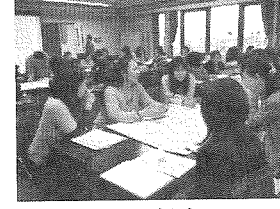
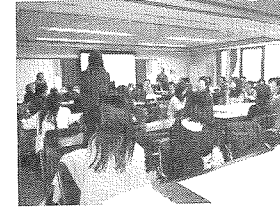
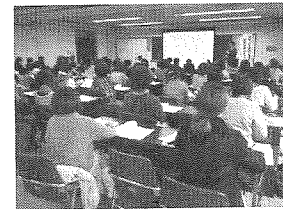
栄養士研究発表会 2.5 (日): ぴゅあ総合



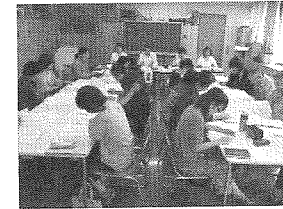
疾病の重症化予防のための食事指導スキルアップ研修会



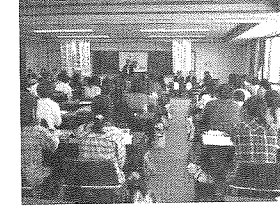
疾病の重症化予防のための食事指導スキルアップ研修会 H24.1.22 (日)・2.10 (土): ぴゅあ総合



第 1 回理事会 4.7 (土)



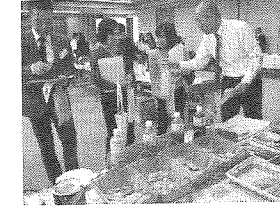
第 2 回理事会 7.8 (日)



山梨県栄養士会通常総会・生涯学習研修会 5.26 (土): ぴゅあ総合



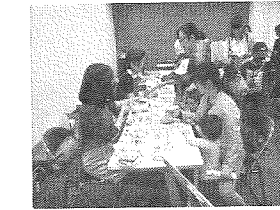
定期総会・協賛商社展示見学・おみやげ・サンプル受取: ぴゅあ総合



歯の衛生週間に伴う栄養相談 6.2 ~ 3 (土・日) 中北支部



峡北支部



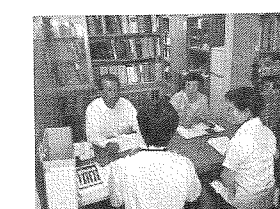
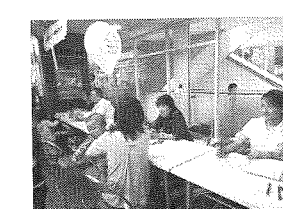
峡東支部



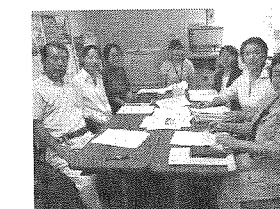
峡南支部



富士・東部支部



県と公益法人移行打合せ: 県庁

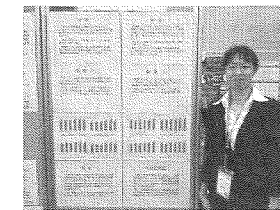


栄養やまなし編集委員会

平成 24 年 写真で見る山梨県栄養士会の主な活動 (H24.1.1 ~ 12.31)



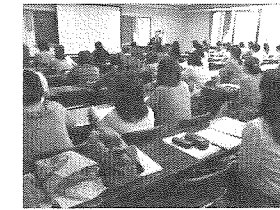
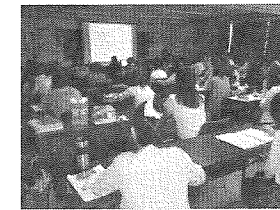
平成 24 年度栄養改善学会発表 9.12 ~ 14: 名古屋国際会議場



厚生労働大臣表彰受賞 H24.9.15



山梨県食育シンポ 6.15 (金)



生涯学習研修会 5.26 (土) ~ ぴゅあ総合



山梨中央銀行主催・山梨学院協力



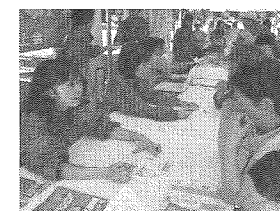
食のマッチングフェア 7.24 (火)



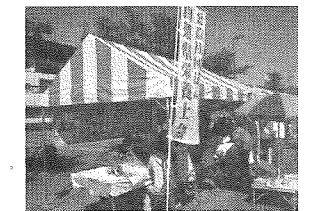
市町村行政管理栄養士配置陳情



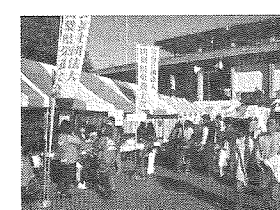
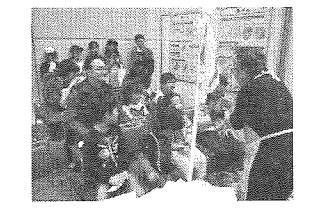
日栄業務支援システム説明会



ねんりんピック 9.29 (土): 小瀬スポーツ公園



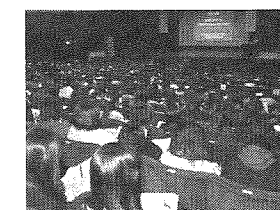
第 28 回県民歯科保健のつどい 10.28 (日): 甲府市市民総合会館



県民の日 H24.11.10 ~ 11: 小瀬スポーツ公園



健康づくり提唱のつどい H24.12.2: 山梨学院メモリアルホール



事業・研修会等実施報告

出前栄養相談

担当：地域活動事業部 立川 聖子
今年度の出前栄養相談は県内の児童館への食育事業であった。7月17日から11月22日まで昨年より多い28か所の児童館へお邪魔した。お馴染みとなった施設と新しく申し込んでくださった施設を含めて楽しみに待っていて下さった。幼児と若いお母さんたちには楽しくて、わかり易い媒体を使って乳幼児期からの食事の大切さを、また350gの野菜を実際に示したり、食事バランスガイドにより家族の1日の必要量を視覚を通して関心を持つように務めた。個人的な相談にも応じた。学童については、基本的な【早寝、早起き、朝ごはん】で生活リズムを整える事を重点的に言い、今年は野菜のビンゴゲームを取り入れたので大いに盛り上がった。幼児も学童も「食べることが好きな子ども」を目指して食育事業を展開してきた。また来て欲しいとの要望に少しでもお役の立つことが出来て良かった。

指導者のための健康・栄養セミナー

担当：公衆衛生事業部 忍野村役場 堀内 美香子
指導者のための健康・栄養セミナーに参加してきました。跡見学園女子大学 マネジメント学部生活環境マネジメント学科教授の石渡 尚子先生に「大豆イソフラボンと健康の関わり」また、独立行政法人国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部長の石見 佳子先生に「大豆摂取と骨粗鬆症」という演題でご講演をいただきました。最初に、石渡先生の講義では、大豆の機能成分である「大豆たんぱく質」「大豆レシチン」「大豆サポニン」「大豆イソフラボン」などと人の健康効果について、また、科学的根拠などについても「ヒト」実験なのか「動物」実験なのかなどご説明をいただきました。「大豆は体に良い」ということは誰でもが知っていることではありますが、この講演を聞いて健康効果がとてもよく理解できました。特にご専門である「イソフラボン」については、更年期症状緩和や乳がんリスクとイソフラボンの摂取量の関係等については、大豆の個々の成分ではなく微量成分も含めてのすべての成分の相乗効果により健康効果がもたらされることがよくわかりました。次に、石見先生の講義では大豆成分の生活習慣病予防効果について、特に大豆イソフラボンと骨粗鬆症の関係については「骨の役割」から始まり「骨粗鬆症について」「骨の構成成分」「大豆製品の有効的な摂取方法」「大豆イソフラボンと運動の併用が体

脂肪率に及ぼす影響」などとても詳しくご講義していただきました。毎日少しずつとること、また、大豆を丸ごととること、運動を併用することは骨のためにととても有効であることなど、とてもわかりやすくご講義いただきました。この講義の内容を基礎知識としてこれからの住民の健康指導、骨粗鬆症予防の指導などに活用していきたいと思います。

平成24年度

食生活と植物油栄養に関する講習会

担当：学校健康教育部会 大藤小学校 佐藤 麻美
平成24年8月9日、山梨学院短期大学において開催されました。

お二人の先生から油に関するお話をいただきました。お一人目の先生は、昨年度と同様、日本植物油協会専務理事の神村義則先生から「知っておきたい植物油の基礎知識」と題して、植物油の定義、原料、風味特性など、植物油の基本的なことに加え、油脂の歴史や食品の安全の考え方など、油を販売する立場からわかりやすくお話をいただきました。

お二人目の先生は聖徳大学人間栄養学部人間栄養学科教授池本真二先生より「メタボリックシンドロームの予防の視点から賢い油脂のとり方を考える」と題して講演をいただきました。

メタボリックシンドロームの基礎知識から、日本におけるメタボリックシンドロームの現状（約30%が心血管系疾患で亡くなっていること、脳血管疾患は寝たきりの原因の1位であることなど）、メタボリックシンドロームの支援形態、代表的な脂肪酸の特徴、脂質摂取の現状と上手なつきあい方について教えていただきました。前半のメタボリックシンドロームに関しては、国民栄養調査において摂取エネルギーは減少しているにも関わらず、肥満の割合はほとんど変化していないのは、消費エネルギーも減少しているためであるとお話があり、「食事・運動・休養」の3つのバランスの大切さを見直しました。また、メタボリックシンドロームの予防として、ストレスが増える20代後半からアプローチをする必要があることを学びました。後半の脂質摂取の現状と上手なつきあい方に関しては、摂取している脂質のうち、8割が見えない油（肉類、魚介類、乳類など食べ物に含まれる油）から供給されているので、これらに含まれる飽和脂肪酸のとり過ぎに気をつけることが重要であると教えていただきました。

いきいき山梨ねんりんピック2012

担当：研究教育事業部 山梨学院大学 織田 鮎美
平成24年9月29日（土）に小瀬スポーツ公園にて「いきいき山梨ねんりんピック2012」が開催されました。晴天にも恵まれ、医療や福祉など他領域の分野の方々に参加されました。

山梨県栄養士会のメンバーに加え、山梨学院大学、同短期大学の学生さんもボランティアとして参加して頂きました。

栄養士会のブースでは、「健康栄養相談コーナー」を設けました。テーブルに料理カードを並べ、昨日食べた夕食、あるいは今夜食べたい夕食を選んでもらいました。様々な種類の料理カードがある中で、立ち寄って下さった方々は、思い思いに料理カードを選んでいるのが印象的でした。料理カードを基にエネルギーや食塩の量はその人にあった適切な量であるか、食事のバランスはどうかなどコンピューターを使って食事診断を行いました。また、その結果を今後どのような食生活を心がけたらいいかなど栄養相談を行いました。

私は、主に栄養相談を担当しました。高齢者の方が多かったのですが、バランスのとれた食事や健康への意識が高い印象を受けました。お話を聞いてみると、家庭菜園をしている方が多く、トマトやきゅうり、またこの時期はぶどうを毎日食べている方がほとんどでした。さらには、牛乳は毎朝必ず飲んでいられる方も多く見られました。一方、病気を抱えていて食事制限をしている方も少なくありませんでした。自分の病気の事をしっかりと把握し食事管理をしている方もいました。

中高年の方からお酒についての難しい質問もあったため、こちらの幅広い栄養学の知識が必要だと感じました。終わってみれば、食事診断などに参加して頂いた方は、100人を超えていて食や健康に興味・関心のある方が多いのだと感じました。

ねんりんピックに参加させて頂き、たくさんの方々との交流することが出来、有意義で充実した1日を過ごすことが出来ました。これからも積極的に参加していきたいと思います。

県民の日のイベントに参加しました。

担当：福祉事業部 大津ケアセンター 若狭 綾子
11月10日（土）・11日（日）の両日、小瀬スポーツ公園の県民ひろばにて「第27回県民の日の記念行事」が開催されました。

（公社）山梨県栄養士会はその日、山梨中銀スタジアム前にブースを持ち、「料理カードを利用した、パソコン栄養診断」を行いました。

来場の皆さんに「日頃、食べられている夕食を料理カードの中から選んでください。」と、実物大の料理カードの中から食事を選んでいただき、パソコンで栄養診断をし、その診断書の内容をきっかけに、心がけたい栄養のコツなどを栄養士がアドバイスしてゆきました。（料理カードによ

るパソコン診断のパソコン用のソフトは山梨学院大学と同短期大学が独自に作ったオリジナルだそうです・・・スゴイ！！）

11月の10日は秋晴れの日向だと、ちょっと汗ばむくらいのスポーツ日和で、スタジアムでは高校生のサッカーの試合がおこなわれていたり、ブースの前ではプラスバンドの方々の演奏も行われていたり、とてもにぎやかな会場でした。

イベントに来ていた方が多かったことや、ボランティアでお手伝いしてくれた山梨学院大・同短大の学生さんの声かけが魅力的？だったこと、そして協賛して下さった業者さんの、おいしいお菓子のお土産もあったりして、その日160名以上の方がパソコン診断に参加してくれました。

診断を受けられた方からは、「煮物などを多くして、野菜をたっぷり摂るようにしているわ。」とか、「減塩に気をつけているわ。」「運動を毎日しているよ。」と、日頃気をつけていることがたくさん聞くことが出来ました。

そのような皆さんの声を直に聞けたこと、そして、他の部会の方々と交流を持てたことは、栄養士としての今後の仕事に役立つものと思っています。

第29回山梨県民歯科保健のつどい

担当：医療事業部 社会保険鵜沢病院 吉原 京子
今年で29回目を迎える山梨県民歯科保健の集いは「11月8日はいい歯の日」にちなみ毎年行われ今年は10月28日にアイメッセで行われました。つどいでは「アゴのかたちといびきの話」等の公開講座をはじめ、お楽しみ抽選会や、子供～高齢者まで楽しみながら歯科保健の大切さについて学習できる内容となっていました。参加はもちろん、歯科検診、歯磨き指導、フッ化物塗布、歯周病唾液検査、口腔がん検診なども誰でも無料で体験でき、その中で山梨県栄養士会では「栄養なんでも相談コーナー」にてSATシステム（食育フードモデル）を使い、来場者に「いつもの夕食は？」をフードモデルから選んでもらい栄養士会会員が栄養バランスガイドを参考に食事アドバイスをする、といった内容で参加協力しました。また、立川栄養士によるエプロンシアターも行われさらに会場を盛り上げました。

当日会場全体の来場者は約3,000人で当ブースでは列ができるほどの大盛況でした。

食事アドバイスの中で多かった質問は小学生とその両親の場合は「子供がなかなか家で野菜を食べてくれないのでどうしたらいいですか？」「働き盛りのお父さんなんだか最近お腹が出てきたので子供とは食事は別にしたほうがいいですか？」、専門学校生は「便秘気味なので何を食べたらいいですか？」、高齢者は「この食事バランスで長生きできますか？」と食生活の相談も年齢・生活環境で様々でした。子供～高齢者まですべてのライフステージの食事バランスのアドバイスをした経験はなかなか貴重な体験となりました。

「平成 24 年度健康づくり提唱のつどい」に参加して

担当：鳴沢村役場 福祉保健課 三浦 ちせ
平成 24 年度健康づくり提唱のつどいに参加し「医師、栄養士と料理人のコラボで出来る町ぐるみの減塩環境づくり」の演題で、こだわりのヘルシーグルメレストラン in 呉プロジェクト代表 広島県日下医院長 日下美穂先生からご講演をいただきました。呉市では医師、栄養士、料理人、編集者、市民などを委員としてプロジェクトを立ち上げられ、地域の飲食店で美味しさにこだわった減塩低カロリー食を各店最低一つメニューに入れてもらう活動をされています。1 食分の基準を参考に各店の特徴を活かした独自のレシピを、栄養士が計算、評価しアドバイスを行いながら完成されたメニューを、お客さんに提供を開始するという方法で、医学的根拠に基づいた減塩低カロリー食を、レストランで美味しく食べ、普段の食生活に活かし、SALTY-CONSCIOUS（塩を意識する・知る）により高血圧等の生活習慣病予防や治療を啓発する活動が広まり、世界で初めて「減塩サミット in 呉 2012」が開催され大盛況であったそうです。この普及活動により、1.5 年後外来患者の方 38.8% の方の中で 84% の方が塩分を控えるようになった、血圧・体重も下がったというような効果がでたようです。日本高血圧学会が推奨する 1 日 6 g 未満を目標とし、子ども達とこの国の将来のために本気で減塩を考え、取り組んでいくことが必要とおっしゃっていました。

また、ヤクルト中央研究所 基礎研究二部フローラ解析研究室長 主任研究員 高橋琢也先生から「生活習慣病予防～腸内細菌のかかわり～」の講義をいただきました。乳酸菌、ビフィズス菌などのプロバイオティクス、乳酸菌でさまざまな疾患のリスクを低下させる、乳酸菌シロタ株の長期摂取により便秘下痢症状の改善・大腸がんの危険性の低減効果、グアバ葉ポリフェノールを含む飲料は食後の血糖の上昇を抑制する効果があることなどトクホの効果的な利用法を学びました。これらの講義から学んだ内容をもとに、これからの減塩の取り組みやトクホの利用について、業務に役立てていきたいと思ひます。

「平成 24 年度疾病の重症化予防のための食事指導活動拠点整備事業」の検討委員として

担当：医療事業部 真野 芳彦
(公社) 日本栄養士会では、管理栄養士・栄養士の業務分野ごとに業務の実態・課題を把握し、専門性(業務の質)の向上を図るための方策について調査研究を行うため、厚生労働省の委託を受けて、平成 23 年 24 年度の 2 年間に渡って、疾病の重症化予防のための食事指導活動拠点整備事業に取り組んでいます。

この事業のねらいは、診療所による栄養食事指導業務を拡充させることによって、生活習慣病の治療に必要な食生活の改善を図り、糖尿病を初めとする疾病の重症化を防ぐことにあります。ただし、診療所の栄養食事指導は、糖尿病等の専門外来の施設以外では管理栄養士が常勤もしくは非常勤で所属することが珍しく、一般診療所での栄養食事指導は充実していません。その診療所で管理

栄養士が活躍できるよう目指しております。
昨年には、診療所で充実した栄養食事指導を担える為に、第 1 回のスキルアップ研修が開催され、ベテランの方も含め多数の方が参加して頂き感謝申し上げます。現在の進捗状況は、食事指導活動拠点整備事業の運営計画および県医師会への広報活動を行っています。県栄養士会は管理栄養士が活躍できる場を拡げていき、この事業が来年度には実績を挙げられるように進めていきたいと思ひます。また、スキルアップ研修につきましては、更なる管理栄養士としての研鑽を積んで頂きたいと考えていますので、今後もスキルアップ研修を計画しております。研修会の開催の折には、多数の方の参加をお待ちしております。また、会員の皆様から、管理栄養士を受け入れてくださる診療所の開拓方法について名案をお持ちの方がおりましたら、県栄養士会事務局までご連絡を頂きたいと存じます。

～ JDA-DAT(日本栄養士会災害支援栄養チーム)のメンバーとして～

担当：公益社団法人山梨県栄養士会副会長 山梨赤十字病院 深澤 幸子
平成 24 年 2 月「第 1 回日本栄養士会災害支援栄養チーム リーダー育成研修」の専門的トレーニングが、二日間の日程で開催されました。山梨県からは「3・11」の災害支援に日本栄養士会から派遣された 3 名(平井美樹夫、山本貴子、深澤幸子)が研修に参加致しました。東日本での実際の 3 人の支援はトレーニングも無く、全て自己完結で出向くというかなり過酷な状況でした。

この様な研修が平時に行われ現実の災害に対応出来るようにすべきだと痛感致しました。また支援に出向くだけではなく支援を受ける側になった時の体制作りも重要な課題だと思ひましたので、この研修が私の災害支援への心構えに対し財産になったのは言うまでもありません。

その後、4 月にこの研修を今後受け持つプロジェクトチームが日本栄養士会の中に結成されました。今後 10 年間で全国に 1,000 人のリーダーを育成する目的で日本栄養士会の正式な委員会になったのです。どの様な人選であったかは定かではありませんが、何故か担当することになった私でした。このプロジェクトには、多くの学習が課せられており、まず、PFA(サイコロジカルファーストエイド)対象者の立場を十分に配慮した心のケアをする方法で対象者が必要としているサービスを受けられるように手助けをする為の研修があり、人の心に寄り添う事の重要性への認識を新たにしたのは言うまでもありません。

次は「災害医療研修」でした。
DMAT の本拠地である「災害医療センター」で全日程ともグループワーク・プレゼンテーションの研修でした。

これには管理栄養士・MSW(臨床心理学)・PT(理学療法士)・柔道整復師等の職種が全国から 53 名参加し、獲得目標は、被災地に到達し効果的な活動について理解できる事等、4 つの課題が決められておりました。

其々の職種を理解し多職種のチームで協力して支援にあたる事の重要性の再確認作業でした。自分勝手な考え・行動は思わぬ事態を招く・・・グループワークを通じて、本当に注意が必要な事と

実感いたしました。

いつ、被災者になり支援を受けるか?これは本当に考えて訓練しておかないと、支援に来て下さった方々が動けません!!

いつ、支援に出向くか?これは各自の意識のありようなのでわかりませんが、備えあれば憂いなしというところでしょうか?

今後も、研鑽を積んで山梨県栄養士会の災害支援体制を整備していかなばと思ひました。

平成 24 年度日本精神科病院協会学術教育研修会栄養士部門を開催して

担当：山梨厚生病院 飯沼 一美
日精協学術教育研修会栄養士部門は日精協山梨県支部の担当のもと甲府市に於いて 10 月 25 日 26 日に開催されました。「食べる事の意味を考える」をテーマに全国から 179 名の受講生をお迎えして行われたこの研修会は県内の精神科病院に勤務する栄養士が企画から携わり準備して参りました。1 日目は日本精神科病院協会会長 山崎學先生による「精神科医療の将来の展望」として今後の精神科医療が進むべき方向性を説明頂き、山梨学院大学 影山光代先生は



新年をむかえて

甲府支援学校 木村 久美
現在勤務している甲府支援学校では、子供たちの摂食機能の段階に合わせて、4 形態の学校給食を提供しています。「美味しく」「安全」なことはもちろんですが、食べにくい食材はなかっただろうか、毎日給食が始まる時間は緊張します。しかし、子供たちが笑顔で給食を食べる姿を見ることで自分も元気になる、力が湧いてきます。そんな日々を過ごしています。

採用から 12 年目が過ぎようとしています。まだまだ新米だと思ひていましたが、後輩も増え、誰に見られても恥ずかしくない仕事をしなければ、と気を引き締めて、自己研鑽を重ねながら勤めていきたいと思ひます。年女と言われてもピンときませんが、1 年後に「今年 1 年頑張ったな」と思えるように仕事も私生活も充実させたいです。

豊かで健康的な食生活を支援するために

中北保健福祉事務所峡北支所 黒瀬 由合
平成 24 年 4 月、山梨県に採用が決まり現在の職場に配属されました。主な業務は、食生活改善の環境づくりとして給食施設指導や、地域栄養

「人間栄養学に基づいた栄養管理」として栄養とうつ病の関係を講演頂きました。シンポジウムは医師、看護師、精神保健福祉士、栄養士をシンポジストに、栄養士以外の医療スタッフ合計 179 名に行った食事療養の調査結果を検証し、多職種から見た栄養管理の有効性、栄養士に求める事の講演を実施しました。栄養士代表では山梨県栄養士会会長 田草川憲男先生に栄養士に足りない物、また必要な事は何かを講演頂きました。文化講演には「葉っぱのフレディ」の絵本翻訳家のみらい なな先生にご自身の半生から、自然の中で学んだ体験についての講演を頂き、会場内が癒しの空間になりました。2 日目のチーム医療梅本和比呂先生「栄養指導のための良好なコミュニケーション」では栄養指導を成功させる為に必要な事、効果的な技法やうつ病や摂食障害の方への関わり方、精神障害等で栄養指導が成立しない場合への対応方法を勉強しました。最後に東邦大学 吉尾隆先生「向精神薬の副作用が関与する食事への影響」として向精神薬と飲食物の関係、副作用と食事への影響についての講演を頂きました。講演後の質疑応答では活発な意見交換等も行われました。後の懇親会は、よっちゃばれ踊りの実演を行い他県の栄養士同志の交流の場となり盛況の内に幕を閉じました。

を改善するための体制整備として食生活改善推進員・栄養士組織等の育成や資質向上のための研修会等の実施、国民健康・栄養調査、健康情報の収集及び提供などが挙げられます。

保健所では、県民の皆さまをはじめ、多くの保健・医療・福祉関係者等と関わりながらお仕事をさせていただいています。例えば保育所の給食施設指導では、栄養士以外にも所長、主任保育士、調理員の方々に同席いただき、適切な栄養管理、食育の推進に向け、助言を行っています。1 日 1 食の給食でも、味覚が形成される乳幼児期の園児にとって、将来の健康に与える影響は大きいと考えられます。施設と行政の目標が一致することは、園児とその家族の健康づくりや様々な食に関する課題解決のために重要で、さらに地域へと波及していくことが期待できます。今後は、各施設の状況に応じた取り組み方法をいかに提案していくかが課題です。

行政での仕事は、結果がすぐに数値でみえるものではなく、長期にわたって県民の皆さまがより健康に生活するための支援を様々な角度から行う仕事だと考えています。勉強すべきことは山ほどありますが、これからは県民の皆さまの視点に立って考え、向上心を持ち続け、より良い支援に励みたいと思ひます。

「ドイツ・バンベルク市民病院を見学して」
山梨学院短期大学 依田 萬代
「ドイツの食」と言うとき皆さんは何をイメージしますか？じゃが芋・ソーセージ・ビールなどが決まりで、華麗豪華なフランス料理や美食の国とは程遠い感があります。ライ麦と多彩なパン、素朴な美味しさが強調され、素材の持ち味を生かし頑固なまでに伝統文化を継承し、地産地消の食文化が成立しました。森と湖や川の気候風土を熟視し都市景観を保持、環境先進国と経済性が融合した国、「食は文化を映す鏡」の言葉を信じ、8月19日から20日の2日間バンベルク社会法人（バンベルク市民病院・老人養護施設の二か所）を訪問しました。

「バンベルク市民病院」は、1789年の設立、市が造ったドイツで最も古い病院でエアランゲン・ニュウルンベルク大学の研修機関とし機能しています。老人養護施設 Antonistift、Bürgerspital 並びに「バンベルク市民病院」は、バンベルク市の Sozialstiftung(社会法人)によって運営されています。事前に見学許可を頂き、食糧配給部門部長 Matthias Kredel 氏から財団のまず説明を受けました。病院職員 350 人、850 床、外来のリハビリ 60 床、毎日 1,500 食を新調理システム方式のクックアンズ、下処理・加熱調理・ベルトコンベア上の盛り付け・仕上げなどの一連の施設・設備、調理作業を視察しました。調理の職員は 119 人から成り、肉は一日 80kg、副菜 120kg、鍋容量は 100 ～ 200ℓ、一番大きな泡立器は 1.5m ありました。献立の種類や既成加工食品（カット食品冷凍、瓶詰、缶詰など）導入する度合いにより調理作業時間が異なり特に下処理が殆んどなくその結果、廃棄部分がゼロに等しく、分別処理も整然となされていました。調理後ブラストチナーにより急速冷却、徹底した温度管理・温冷配膳車で一連の流れがシステム化され、メニューの選択肢が増え適温給食によって、喫食でき患者サービスの向上に繋がり、調理作業の合理化、献立・メニューの充実、高品質で均一化された食事提供、労働時間の合理化、食品衛生管理の充実・向上などが挙げられ最終的には人件費の削減に繋がっています。作業工程を的確に判断し、調理作業計画にクックチル料理を組み込み作業量の標準化が図られ中心の調理工程には、ベテラン作業員が当たり、決められた重量・容量によってスムーズに対処していました。

海外短期研修が今後の業務に生かせるよう頑張りたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。山梨県栄養士会 HP トピックスに一部掲載されました。

「あちこち首を突っ込み頑張っています」
甲府共立病院 岡村 貴子
新年明けましておめでとうございます。

管理栄養士として就職して 20 年以上が経過しました。就職した当初は栄養指導が管理栄養士限定ではなく、栄養士でも栄養指導できる時代でした。今は栄養指導のみならず栄養管理業務も増え、管理栄養士のおける役割を実感しているところです。

昨今の病院はチーム医療がもてはやされています。NST もその 1 つです。NST や褥瘡回診に管理栄養士は欠かせないものになっています。

そんな中、呼吸ケアチーム、感染対策チーム、心臓リハビリチームと新たな活動に参加しています。

呼吸ケアチームでは人工呼吸管理を行っている呼吸不全患者の呼吸ケアを行っており、その中での栄養管理を担っています。感染対策チームでは院内感染予防の中でも食中毒対策を行うためチームの一員となりましたが、感染予防のためには栄養管理を行い栄養状態を良くすることが必要です。

今年度に入ってから、心臓リハビリのチームに加わり活動し始めました。当院の心臓リハビリは 3 年前に立ちあがっており、毎週継続してリハビリが行われています。主には心筋梗塞で治療をされた患者様が対象ですが、中には大動脈置換術後やバイパス術後の患者様もリハビリに通ってられます。その中で他職種では見落としがちな栄養面からのサポート、指導を行っています。

NST の活動でも急性期の栄養管理は疾患の管理が難しく栄養の方針決定も悩む事が多かったのですが、人工呼吸管理の患者様は更に状態の悪い方が多く栄養管理の難しさを痛感しています。また人工呼吸器や心電図の見方、多剤耐性菌、指定抗菌薬などのいままであまり関わりの無かった言葉の勉強と新たに学ぶことが多くなっています。ベテランになり経験が増えたことは良いことですが、記憶力の低下は否めず新しい事柄に四苦八苦しています。

心臓リハビリチームに参加し、栄養指導と運動療法の両立の必要性を肌で実感しました。これを今後の栄養指導に結び付けていきたいと考えています。

今年の抱負

福永 千賀代

新年明けましておめでとうございます。

結婚を機に山梨県在住となり、地域活動部会に籍を置いて 15 年余り仕事をして参りました。県栄養士会をはじめ、関係される多くの方々に巡り会うことができ、ことある度に助けていただいたことにより、今日の私があるといえます。心より感謝申し上げます。

60 歳を迎えて、いま私は区切りのようなもの

を感じています。そしてこれからの方向として 2 つのことを考えております。1 つは現在の食生活は個々によって様々であります。その様々な状況に応じてきちんと対応するためには、今まで積み重ねてきた経験を元に、さらに細やかに、丁寧に対象者に対して接していきたいと考えております。また、二つ目としては、栄養士会に関わる若い方がよりよい状況で活躍できるように道を作っていくことができればと思っております。まだまだ未熟な私ではございますが、これからも宜しくご指導の程お願い致します。

県栄養士会および会員の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

刑務所と管理栄養士

甲府刑務所 深山 俊彦

はじめに、刑務所での栄養士業務に関心を持たれる方もいると思いますが、業務として行う内容は、各現場で働いている栄養士と同じであるということ伝えておきたいと思ひます。献立作成から発注・在庫管理・衛生管理等、栄養士としての基本的な業務内容を日々行っています。唯一異なる点は、食事提供対象者が収容者であるということのみです。提供者が異なるのは各現場で働いているどの栄養士にも言えることであり、なんら特別なことではないと言えます。

また調理現場は、幾つかの刑務所を除いて調理従事者は収容者のみで行います。よって調理手順や衛生管理などの指導も、時には直接収容者に対して行うこともあります。そんな時はどうしても緊張が続き、一番疲れをおぼえる時です。

私自身、今年の 1 月末まで徳島県で働いていて、その頃は介護・医療と現場を替えながら仕事をしてきました。そして故郷の山梨に戻ってきて、就いたところが今の甲府刑務所です。

まだまだ管理栄養士としては、未熟な面も多々あると思ひていますが、管理栄養士の私にしかできない事を何らかのかたちで仕事に反映していきたいと思ひながら、日々の業務を行っています。

仕事を始めて 1 年

山角病院 依田 理沙

当院は、患者さんの社会復帰を目的とし、精神科、神経内科専門の病院です。患者さんにとってより良い医療が行えるよう、職員全体で資質の向上に努めています。

私が栄養課での仕事を始めてから 1 年が過ぎ、仕事の内容にもやっと慣れてきたのかなと思う日々です。仕事を始めた頃の事を思い出すと、1 日の仕事の流れを覚えるのが精一杯で、メモ帳を片手に仕事をしていた事を思い出します。

現在は主に調理中心の仕事で、まだまだ調理の面では分らない事の方が多いですが、先輩に指導してもらい、自分自身でも少しずつ勉強をしながら調理の仕事をしています。忙しい毎日の中ですが、学ぶことも多いので毎日がとても充実していると感じています。

調理の傍ら栄養士として患者さんの食事の様子を見に病棟に行くことがあるのですが、実際に自分が調理した料理を食べているのを見ると、不思議な気分でもあり、時にもっと勉強が必要だと感じる事があります。最近特に感じる事は、食事というのは栄養面はもちろん大切なことですが、見た目の大切さというのを感じます。いくら栄養のバランスがよく、味がおいしいものであっても盛り付け方 1 つで食欲に大きく影響するものだと感じるようになりました。調理の現場にいて私が改めて勉強になった事でした。

現在は調理の現場で働いていますが、管理栄養士としての勉強もしなければいけないと感じています。指導する立場である以上、常に新しい情報や専門的な知識を見に付け、自分自身がスキルアップするべきだと思います。人から教えてもらうだけでなく、自分から率先して学ぶ努力をして、頼られる栄養士になっていきたいと思ひます。まだまだ勉強中の毎日ですが、まずは自分のできることをしっかりやり、少しずつ成長していきたいと思ひます。

学びと感謝を常に

中北保健福祉事務所 山田 智子

社会人、そして県職員栄養士となった私の初めての職場は、中北保健福祉事務所です。特定給食施設の巡回指導や調理師試験、組織育成等の食に関わる業務の他、たばこや歯科保健等の健康づくりを担当しております。業務では、調理の現場で働く方々に対して指導や研修会を企画する機会があります。「新人の私に何ができるのか。」と、戸惑うことが多々ありますが、2 点を心掛けて前向きに業務に取り組んでおります。

1 つ目は、食欲に学ぶことです。資料を読み込み、法律や制度等の不足している分野を補うとともに、話を聞くことで新人の私に足りない「経験」を補うことに努めています。特に、巡回指導はただ文章を読むだけでは得られない、経験者の考え方を知る良い機会となっています。

もう 1 つは、感謝することです。些細なことでも感謝を持って接することが、相手の立場に立つ事や、さまざまな視点からものを見ることにつながると考えています。

この 2 点を常に心がけ、様々な方との関わりの中で得た知識を活かして、何が最善なのかを見分ける目を持った栄養士になれるよう、努力していきたいと思ひます。

厚生労働大臣表彰受賞おめでとうございます

受賞に際して「思い出」を少し・・・

山梨学院短期大学 田草川 憲男

皆様のおかげで、栄えある表彰を受けることができました。ありがとうございました。

昭和 45 年に山梨県庁に就職し、最初の勤務地は石和保健所でした。ベテランの藤巻一雄保健予防課長（元山梨県栄養士会長）のもと、行政栄養士のノウハウを教えてくださいました。上司が同職種だったことは幸運でありました。キッチンカーでの管内各地での講習会や栄養改善推進員養成講習会・組織育成、調理師会組織の設立など思い出深いです。

深山先生・長田先生など皆さんの勧めで、日本栄養士会の行政栄養士協議会の役員を経験し、協議会長を務めたときは、厚生省の「食生活指針策定委員」や「健康食品対策検討委員」などを経験いたしました。

昭和 54 年に県で初めての県民栄養調査を予算化し、食塩摂取量 16.6g という日本一食塩摂取量の多い県との発表を行い、減塩運動のきっかけとしました。

国立公衆衛生院の一か月研修では、初めてパソコンの演習が取り入れられ、その経験から、栄養診断ソフトを独自開発し、栄養診断をする目的で、全保健所に初めてパソコンが導入されました。また、栄養士会としても「食生活診断」ソフトの開発を行い、各市町村の健康まつり等のイベントで栄養診断・相談に活躍しました。

健康運動指導士制度創設に伴い、いち早く保健所栄養士がその資格を取るべきとの考えを示し、随時資格取得のための講習会参加を行いました。

行政栄養士の役割は、管内の健康情報の収集・分析・提供が大切であることから、老人保健事業での健診データや国民健康保険疾病分類統計データの加工・分析を行い管内市町村に説明し、生活習慣病対策のためには食生活の改善の重要性をアピールしたり、健診受診率の向上のための適正な対象者把握の必要性について、市町村指導を行いました。

山梨学院の好意により、現在栄養士養成のお仕事をさせていただいております。社会に役立つ栄養士の養成と管理栄養士・栄養士の活動にお役にたつよう努力したいと思います。

厚生労働大臣表彰を受賞して

遊佐 渚

初秋の 9 月 15 日、名古屋国際会議場で開催された『全国栄養改善大会』において、栄えある厚生労働大臣表彰「永年にわたる栄養士として栄養指導業務に尽力をつくした功績」をいただくことができました。

身に余る受賞に関係機関の暖かい、ご配慮とご尽力のおかげと心より感謝いたしております。

50 年前栄養士の免許を取得し、神奈川県庁に就職して、行政の仕事に配属され、国民栄養調査、キッチンカーなど県内の地域をくまなく（山奥、漁村、繁華街など）栄養教室、料理講習会、栄養相談、イベントなど企画・立案しては、飛び回っていたことが思い出されます。その間、管理栄養士の試験に合格して、登録しました。その後 40 年余前に縁あって山梨の地に根をおろし、山梨県栄養士会に所属して、地域活動事業部員（旧公衆栄養推進部会員）として地域県民の健康管理支援という心構えを常に忘れず活動してきました。栄養士会事務局に席を置いていたときは、本会の活動強化、会員の方々への応

援、栄養士会以外の関係機関との連携に取り組み、「山梨版食事バランスガイド」の作成に係ったときはもうすっかり山梨県民となりました。

栄養士・管理栄養士の役割は生活習慣病予防対策の推進の上で大変重要になってきています。今後は、若き栄養士会員が益々活躍できるよう、微力ながら応援していきたいと思っています。



山梨県知事表彰おめでとうございます

・・・栄養改善功労者知事表彰をありがとうございます・・・

甲府相川ケアセンター 堀口 一美

健やか山梨推進大会が 11 月 4 日、甲府・県立文学館で開かれ、栄養改善功労者として知事表彰をいただきました。ご推薦をいただいた関係各位の皆様方に心より御礼申し上げます。

多くの諸先輩方の後ろ姿をみて、ひたすら栄養士として仕事してきた私が、このような栄えある表彰をいただき、身に余る光栄と感謝でいっぱいです。思い起こせば、栄養士会においては、支部活動（中北支部）で、他の職域の栄養士の方々と知り合うことができ、また、職域部会では、福祉の多くの会員の方々と知識の共有ができ、仕事が継続できたと思います。この賞を糧に、今後も、栄養士として業務に励んでいく所存です。なにとぞ、ご指導の程よろしくお願い致します。

栄養改善功労者知事表彰をいただいて

北杜市甲陽病院 堀込 かずみ

この度、栄養改善功労者として身に余る知事表彰をいただきました。山梨県栄養士会および多くの関係者の方々に心より感謝申し上げます。

振り返ると、児童福祉施設、企業、保育所、病院と、さまざまな職域で栄養士として 30 年余り勤務させていただき、尊敬する大先輩や素晴らしい友人と出会うことが出来ました。

児童福祉施設では、新人栄養士で目先のことばかり考えてしまう私に、「千の倉より子は宝」の理念のもと、慈しみの心を持つこと、大切な事を大切にすること。そして、大きな目標を掲げたら小さなことを積み重ねていく必要性を教えてくださいました。

企業では、プロの栄養士として、エビデンスに基づいた言動を教えてくださいました。この時の母親教室、乳児検診、調乳指導等が現在の礎となりました。

保育所では、給食にバイキングをとりいれ、子供たちと食べる楽しさにふれあうことができました。

そして、現在の病院では、チーム医療の一員として NST 活動にも取り組んでいます。日々特別な栄養介入の必要な患者様に対して、職種の壁を乗り越えて連携のとれた適切な栄養管理を検討しています。

県内外からの研修生の受入れ、研修会や学会への参加なども積極的に行っております。

この表彰をいただいたのを機に、30年前を思い出し、多くの方々との出会い、そして、支えてくれた家族に感謝して、これからも栄養と食べることの専門職種として、自己研鑽を積み、微力ではありますが栄養士会への協力や、様々な活動に参加していきたいと思いますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

知事表彰をいただいて

山梨県栄養士会事務局 山本 聖子

この度は、栄養改善功労者として、知事表彰をいただき、推薦して下さった多くの皆様方に感謝申し上げます。

私は、山梨県職員となり、学校、病院、保健所と経験し、平成22年3月に定年退職いたしました。

異動のたびに、栄養士としてのより高度の知識が必要になるために、県内外の研修会や講演会に参加しました。そこで出会った仲間達とは今でも情報交換を行っています。

現在は、山梨県栄養士会の事務局で会員の皆様のために少しでも役立つような事業の計画づくり等を行っています。

平成23年3月には、特定保健指導施設として認可され、現在までに260名の特定保健指導を実施しています。

また、保健、医療、福祉及び教育等の分野において、職業倫理と高度な専門性を以て、科学的根拠に基づく食と栄養の指導や支援をととして県民の公衆衛生の向上に寄与することを目的として、平成24年4月1日付けで、公益社団法人山梨県栄養士会としてスタートしました。今後も微力ながら栄養士会の活性化に貢献出来たらと思います。



「健やか山梨21」健康づくり表彰受賞おめでとうございます

「健やか山梨21」健康づくり表彰を受賞について

福永 千賀代

平成24年11月4日、県民文学館において行われた「健やか山梨21推進大会」において、健康づくりの表彰を受けました。同時に地域活動事業部が団体受賞したことは、それにも増して何よりもうれしいことです。私も栄養士の仕事は乳幼児から高齢者における幅広いステージに対して健康をテーマ

に支援しています。「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、最後にクスリ」の運動においては、ウォーキング等に多くのイベントも立ち上げられ、多くの普及が見られているものと思われます。中でも禁煙においては環境管理もかなり整ってきました。食事に関しては、個々により課題が様々であることから取り組みの様子が見えにくく、残されている課題も山積みであるように思われます。このような状況の中、より良い将来を築くために微力ながら食に関する努力を続けて行きたいと考えています。今後共ご支援の程宜しくお願いいたします。

健康づくり表彰を受賞して

立川 聖子

この度、山梨県「健やか山梨21推進大会」の席上、計らずも「健康づくり」表彰を受賞いたしました。「なぜ私が？」と恐縮に思いましたが、地域活動事業部と一緒に受賞したことは本当にうれしい事と感じて居ります。

これも、偏に田草川会長はじめ事務局の方々のお励ましと事業部の会員の皆様が一丸となって食育活動に真剣に向き合って活動して下さった賜物、と心より感謝申し上げます。

私は、保育園と老人福祉施設で長い間働いて来ましたが、平成13年退職後の生き方を考えた時、保育の先輩でもある望月寿美子さんが退職後山梨学院短大食物栄養科で学び、栄養士として地域で活き活きと活動されているのを知り私も真似をしました。18歳の若い方達と学んだ2年間は無我夢中で、難しい専門用語はなかなか覚えられませんでした。先生方のご指導の許で栄養士として認めていただきました。

地域活動部会へ所属し会員の皆さんがボランティアで地域の乳幼児や学童、高齢者に食生活の大切さを熱心に講習しているのを実際に見ることが出来て、とても勉強になりました。先輩のご指導を受けながらの楽しい媒体作り、集会への導入の方法など皆さんと考えながら実践してきました。丁度「食育基本法」が施行され食育を広めるチャンスでした。以来、県下の児童館で、地域活動部会の仕事として管理栄養士、栄養士の区別なく会員がそれぞれの持ち味を生かして自分たちも楽しみながら食育活動を続けております。御蔭さまで何処の児童館でも「朝食の大切さがわかった」「野菜をもっと多く摂りたい」「好き嫌い無く食べる」「献立を考える」「また、来て下さい」など好評を頂いております。これからも新しく、正しい情報を提供しつつ自分自身を磨く努力をしなければいけないと考えて居ります。

また、役員として全国や関東ブロック栄養士会の皆様との交流の中で、多彩な情報を得ることが出来たのも大きな収穫です。



職域事業部のコーナー

学校健康教育事業部

おいしい給食を目指して

学校健康教育事業部長
かえで支援学校 窪寺 ゆかり

学校健康教育部会員は、毎日の給食を通して、子どもたちに安全・安心な給食を提供することに日々配慮し、それとともにおいしい給食を求めて日々研究を重ねているところです。

学校健康教育部は会員 20 名ほどで、他の部会に比べると一番少ない部会となっていますが、各自で郷土食の研究や食育教材の研究をして、子どもたちにとって生きた教材としての給食を提供するために頑張っています。

今年度本部会は、安心・安全でおいしいパン作りの技術を学び、もう一度おいしい食事とは何かを考える機会にしようと計画を立て調理技術研修を

行いました。

アトリエ・ウィークエンドの福田由香里先生を講師に迎え、10 名参加のもと、おいしいパンについて学習しました。国産の強力粉など厳選された材料を使用し一生懸命こね焼き上げたパンはとてもおいしく身体にやさしい味がしました。また国産の小麦粉と外国産の小麦粉の違いや、素材の扱い方も丁寧に教えていただきました。気さくな先生とのふれあいでとても楽しくほっとする時間を持つことができました。

また、普段なかなか会う機会のない仲間と交流も持て、いろいろな情報交換ができ実りのある研修となりました。栄養士にとっておいしい味を知ること、とても大切なことです。これからも求める気持ちを忘れず、部員みんなで交流を重ねながら、各校で頑張っていきたいと思っています。

公衆衛生事業部

行政栄養士の情報交換の場・紹介します…!



公衆衛生事業部長
富士・東部保健福祉事務所
早川 文子

保健所の統合、市町村の合併により行政栄養士のいる場所は限られた数となっていますが、ただ今、行政栄養士の平均年齢は若返り、フレッシュな風が吹き込むという恵まれた環境となっています。これも、県栄養士会の市町村への栄養士配置の働きかけと市町村における栄養行政の必要性の理解によるもの考えるところです。

さて、行政における取組みについて報告をさせていただきます。

【定期総会の開催について】平成 24 年 7 月 21 日(土)、久しぶりに 18 名の出席者により開催し、旧年度の事業報告及び今年度の事業計画について検討を行いました。なかなか顔合わせのできないことから、保健所、市町村毎に検討を行い、全体の意見を纏め、今年度の事業の方向付けを

しました。

【研修会の開催について】平成 24 年 12 月 22 日(土)、ぴゅあ総合において以前生涯学習で講演をいただいた、早稲田大学の福岡秀興教授による「食育は胎児から」一胎児からはじまる生活習慣病—(仮称)—と題し先生からの講演を予定しています。また、平成 25 年 1 月～2 月の間に 3. 11 の大震災を踏まえ、大規模災害時食事支援マニュアル(仮称)の策定に向け、行政栄養士研修会を予定しています。

【各保健所における業務検討会等】保健所では実情に応じ、年間を通じて業務検討会及び現任教員(新任行政栄養士を対象とした研修会の実施)等を実施しています。年度ごとの取組み等職種間での情報を共有する中で、これからの栄養行政のあり方等について検討しています。

このように計画は立ててはありますが、日常業務に追われる中での取組みは、休日も容赦なく予定が入り、全員集まることのできない環境下にあります。

でも・・・、それぞれの立場で頑張っています。

研究教育事業部

地域食材が食育実践につながる取り組み

研究教育事業部長 山梨学院短期大学 中川 裕子

平成 24 年度の研修会を 12 月 16 日に開催しました。山梨県特産の地域食材として栽培している市川三郷町『大塚にんじん』の収穫体験と『地元野菜のおいしさで見分け方』というテーマで、山梨産業支援機構(山梨県商工会連合会)アドバイザーの芦澤様より講義をして頂きました。また、信玄どり 100% にこだわったお店で会食をしながら、地元食材の食育実践への活用について様々な意見交換をしました。学生の多くは将来、管理栄養士、栄養士、職業人として地域と密接に係わりながら、県産食材を利用した食事を提供する機会が訪れます。そのためにも食経験の幅を広げ、栄養や食品の知識を体験的に学習できる体制作りとして、地域食材を取り入れた授業実践は貴重な経験となります。平成 21 年からは、山梨県との連携事業の一環で、学生と共に地域食材を利用した料理レシピ(甲斐サーモン、頬落鶏、甲州もろこし、天空かぼちゃ、米粉パン、山菜、キノコ、桃、スモモ、キウイ、甲州ブドウ)や洋菓子・和菓子作り等の開発に積極的に取り組んできました。また、山梨中央銀行主催の山梨マッチングフェアに参画して、栄養や食品の観点から食品相談に応じ、社会に開かれた実践活動を心がけています。また、実際に食べた食事内容をそのまま料

理カード(群羊社)を用いて選択し、1 食または 1 日分の食事摂取量を概算できる山梨学院オリジナルソフトの開発も行いました。県民に広く周知して頂けるよう、各イベントで実際に料理カードを活用した栄養教育実践や、研究教育事業部ならではの科学的な根拠を軸に、より多くの県民の皆様の食生活改善に積極的に係わっていただけるような活動の展開を図りたいと思っています。



大塚にんじん
収穫体験



地元食材の
食育実践
意見交換会

勤労者支援事業部

活動報告

勤労者支援事業部長 キープ自然学校 大柴 由紀

新しく“勤労者支援事業部”となり、何を活動の中心にするか、また新体制の中模索しながらのスタートでした。私たちの事業部の特徴はそれぞれの栄養士の業務が多岐にわたっている一方、会員数は少なく、なかなか集まりにくい状況にあります。そういった事情をふまえて、何が出来るのかを今後も模索していきたいと思っています。

以下、今年度の活動報告として 2 点上げさせていただきます。

まず 1 点目は人数が集まる研修をしよう、会員同士交流が深まる研修にしようということで、峡東支部の方々と合同で株式会社ヤクルト本社富士裾野工場の見学をさせていただきました。

2 点目は 9 月行われた日本栄養士会大会勤労者支援事業部ネットワーク会議への参加についてで

す。全国には 9 つのブロックがあり、各ブロック代表者と有志の参加で約 30 名ほどの参加者で、今後の勤労者支援事業部についての活動のあり方について、ディスカッションを行いました。どの県でも、事業部会員数が少ないこと、また県内に広く仕事場所が分散していることなど、山梨県が抱えている課題と同様のテーマが挙がりました。勤労者支援事業部と言っても、純粋に社員食堂などの給食を担当している栄養士ばかりではありません。なぜ、「勤労者支援」なのか?という疑問も挙がりましたが、それはさておき、まずは全国で活動している会員のネットワークをつくらうということになりました。

また勤労者支援事業部においては、他県での研修会にも参加できるようにならないだろうか。という積極的な意見も出され、意欲ある会員の方々にもお会いできて刺激になる会議でした。

地域活動事業部

一步でも前進したい

地域活動事業部長 立川 聖子
公益法人になり栄養士会の在り方も「広く住民への公益性を持った事業をすることが望ましい」との事で、頭では解っていてもいざとなるとどの様な事業をすれば良いのか？

地域活動事業部員は管理栄養士、栄養士であっても恒常的に仕事をするのではなく在宅にあって、自治体の保健事業の手伝い、診療所での病態栄養相談、個人的に依頼のある仕事など多種多様な乳幼児から高齢者までが対象であるので常に自ら研鑽しスキルアップをして行かないと「3年前に得た知識をクライアントに話すな」の注意事項になってしまう。では、どうしたら良いか？我が事業部の大きな仕事としていただいている出前栄養相談の児童館食育事業に新人の会員も参加して事前の研修会を行い、話術、指導のポイント、媒体の製作等の準備をして臨んだ。また、担当の会員が自分の持ち味を生かして講座を催したので大変好評で家庭の献立を見直したい。野菜をもっと摂るようにする。好き嫌い無く食べるようにする。など反応があった事は、会員の学習にもなった。他の事業としてはNPO法人の「きっず八代」の相談事業、甲府市「街なか健やかサロン」での相談事業である。甲府市の場合はサロンを運営して

いるベテランの保健師さんと連携して不特定多数の健康に関心のある市民、育児中の保護者への相談を行っている。「きっず八代」は主に就園前の幼児の保護者に食生活に関しての個人対応の相談を行って成果を上げている。

栄養士会の事業にも担当者を出して協力させていただいている。部員の研修は年明けにウオーキングを兼ねてモヤシ工場の見学とモヤシの新しいレシピの開発を行いたい。また、部員の現状把握が出来ていないのでアンケート調査を実施する予定である。

皆様にご報告したいのは、11月4日に行われた「健やか山梨21推進大会」の席上において事業部員が食育活動について知事表彰していただいたことは事業部として大変喜ばしい事であり何よりも一步でも前進するための糧となった。



医療事業部

事業報告

医療事業部長 山梨赤十字病院 深澤 幸子
平成24年度は、山梨県栄養士会が「公益社団法人」となった記念すべき年度でありました。

同時に、病院部会も新たに「医療事業部」として名称変更とともに「役員改選」を伴う新執行部体制でスタートを切る年度となりました。

諸先輩方が築いて下さった、旧病院部会体制の継続とともに、そこから新たな医療事業部体制を構築し、会員にメリットの多い研修会の開催を行い会員の「スキルアップ」を図る事を目標に致しました。

しかし、安定した運営を心がけなくてはならないのも最重要課題であります。

その為、今年度の研修は数多くはありませんが「身につく研修」を目標と致しました。

下記に内容を記します。

総会時の研修：近森病院 宮澤靖先生をお迎えし「最新の栄養療法」と題し、貴重なご講演を拝聴いたしました。多くの専門職種が高知まで出向き、指導をしていただいている貴重なお話を地元で聞いた事は栄養士会だからこそ考えます。

現時点では、この研修会だけです。今後の予定としては、新年早々～平成24年度診療報酬改定に伴う栄養管理の入院基本料への包括化への対応の研修～として「有床診療所等就業管理栄養士研修会」を開催する予定となっております。

そして、3月には軽井沢で開催されます「食事療法学会」へ一日研修を実施いたします。

今後の研修会への多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

また、医療事業部へのご意見、ご要望をお寄せください、そして会員皆様のためのより良い会に育てていきましょう。

福祉事業部

個々のスキルアップを目指して ～スキルアップ研修会3日間 学習会1日を実施して～

高齢担当 介護老人福祉施設 コスモ 守屋 喜久代
高齢（介護保険）施設では平成17年10月、障害者施設では平成21年4月より栄養ケアマネジメントが導入され、個々の利用者さまに応じたケアを実践し、多職種協働で取り組んでいます。個々の利用者さまへの対応は、栄養士の高度な技術が必要とされ、スキルアップを目指した研修を行っています。

また、（公社）日本栄養士会福祉事業部でも、個々の栄養士のスキルアップのためキャリアパス制度を導入しています。特定分野認定制度を視野に、即役立ちより効果的な栄養ケアマネジメントが実践できることを目的としています。多くの会員がこの制度に参加してスキルアップする為に、第1段階である初任者研修を県内で開催しました。

政安静子日榮事業部長を講師に3日間行いまし

た。
・4月20日 総会及び講演「平成24年介護報酬及び障害福祉サービス等報酬改定のポイントと栄養ケアマネジメント初任者研修基礎講座」58名参加

・6月1日 事例によるグループ演習 31名参加
・6月2日 ロールプレイングによるグループ発表 38名参加

栄養ケアマネジメントの基礎であるアセスメント等を研修し、演習では多くの意見交換がされました。その後、中賢者研修へと継続される会員が増えています。

また、独自の勉強会として水分管理について、大塚製薬OS1事業部との共催にて行いました。

・10月26日 講演「施設における高齢者の脱水と経口補水療法について」51名参加（一般12名）講師

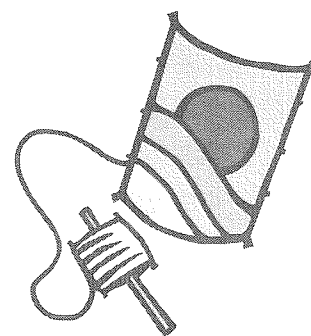
神奈川県立健康福祉大学教授 谷口英喜先生
利用者さまの期待に応えられるよう会員の皆様と一緒に進んで行きたいと思ひます。

「手づくりおやつレシピ集」の作成

児童担当 市川三郷町立三珠保育所 土橋 きく江
今年度の事業の目玉は、児童福祉施設栄養士会として活動を始めてから20年あまりを経過し、会員の親睦を深め、リフレッシュできるよう県外研修を計画しました。

大勢というわけにはいきませんでした。参加した会員は有意義な時間を過ごせたのではないのでしょうか。

そしてもう一つ、今まではレシピ本やかかるたなど、委員を中心に作成してきましたが、多くの会員に参加してもらいたいという思いから、みんなに声をかけレシピを募集し、「手作りおやつレシピ集」を作成しています。



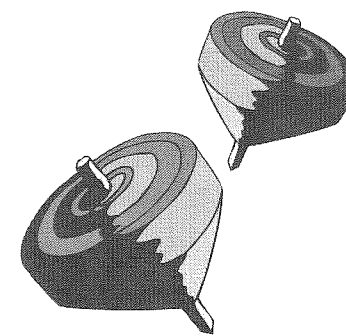
・6月1日 総会
おやつレシピ集作成について説明しました。

・10月20日 県外研修
長野県伊那食品工業株式会社 県学
「かんてんパパ」を支える社員の心構え、寒天を中心とした集団施設で活用できる商品の紹介をしていただきました。

・2月 研修会予定

・年間事業として、「手作りおやつレシピ集」作成

今後も栄養士としての専門性を高めると同時に、資質向上につながる研修会を計画していきたいと思ひます。



平成 24 年度 理事業務分担表並びに委員会名簿

理事別職務分担表（平成24年度～）

部 名	部 長	担 当 理 事	担 当 業 務
総 務	早川文子	大柴由紀、堀内美香子、福永千賀代	会議、経理、栄養・食生活情報編集委員会、栄養ケアステーション、委託事業の検討
事 業	平井美樹夫	秋山めぐみ、小林貴子、吉川順子	研修会、委託事業の実施、ねんりんピック、県民の日、歯科保健相談、県民歯科保健つどい、その他のイベント、賛助会員関係
学 術	中川裕子	武井さおり、守屋喜久代	生涯学習研修会、栄養士研究発表会
組 織	堀口一美	土橋さく江、柿島穂津美	会員増対策、会費自動振り込み促進、退会者防止対策、市町村栄養士配置対策、支部の運営
広 報	立川聖子	窪寺ゆかり、鶴切聖子	ホームページ、栄養やまなし編集、報道機関対応

各委員会委員名簿（平成24年度～）

	生涯学習委員会	栄養・食生活情報検討委員会	ホームページ運営委員会	栄養やまなし編集委員会	栄養ケアステーション推進委員会	栄養日本モニター(2人)	備 考
委員長	中川裕子	早川文子	立川聖子	遊佐 渚	深澤幸子		
学校健康教育	小池ゆき	向山由貴子	羽中田睦	半田裕子	各		
公衆衛生	黒瀬由里	堀内美香子	千頭和功	三浦ちせ	職		
研究教育	中川裕子	中島夏美	深澤早苗	塚原順子	域	森本美里	
勤労者支援	平野真衣子	大柴由紀	宮下友里	天野江津子	事		
地域活動	横森理恵	福永千賀代	立川聖子	古屋宏美	業		
医 療	佐藤秀子	黒崎禎巳	平井美樹夫	吉原京子	部	荒川元喜	
福 祉	村松裕子	宮澤理恵	宮川佳子	三上順子	長		

関係機関・団体等の委員就任状況

- ・山梨県社会福祉審議会委員
- ・山梨県食の安全安心審議会委員
- ・健やか山梨21推進会議委員
- ・山梨県地域・職域保健連携推進協議会委員
- ・山梨県食育推進協議会構成団体（副会長）及び幹事会
- ・社団法人日本栄養士会 業務支援システムプロジェクト委員会委員
- ・昭和町食育推進計画検討委員
- ・第28回国民文化祭山梨県実行委員会 やまなし食のカレンダー専門部会委員
- ・第28回国民文化祭甲府市実行委員会 暮らしと味わいフェスティバル事業別企画委員会委員

国民文化祭が開催されます

日本最大級の文化のお祭りで、文化の国体とも言われています「国民文化祭」が、山梨県で平成25年1月12日から11月10まで303日間にわたり開催されます。

期間中、県内各地で様々なイベントが開催され、全国からたくさんの方が出演者、観覧者として来県します。

山梨県関係の「食」関連事業として、県産食材を使用した「やまなし食のカレンダー365」の作品等を募集しています。また、甲府市関連事業として、10月20日に甲府駅北口で食関連のイベントが開催されます。山梨県栄養士会では、県や甲府市の実行委員として協力しております。

こんにちは

～給食委託勤務の会員から～

日清医療食品

日清医療食品は、「おいしく食べて元気に！」をモットーに、医療・福祉施設に特化したヘルスケアフードサービスを展開する委託給食会社です。

古屋 智奈美、井上 望美

QOL向上が必要とされる中、食事形態に関係なく、質的に優れた食事提供を心掛けています。また、行事食やイベント食を通じて日々の生活にアクセントも添えています。

私の働いている委託先では、施設側に献立権があるため、献立作成はしませんが、発注・衛生・人事管理をしています。具体的な仕事内容として、衛生管理では、従業員の健康管理をはじめ、食材や調理器具、厨房内の備品の整備を行っています。人事管理では、効率よく作業が進められるようシフトを作成したり、調理師や

調理員など様々な役割を持った従業員がいる中で、良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力も求められています。

施設内での栄養士の役割分担として、調理師さんが料理をする人であるのに対して、栄養士は切込みから盛り付け、配膳膳まで、一連の流れを把握しなければなりません。また、食事箋を素にアレルギーや病気の入用の食事変更といったことも行います。

365日患者様の栄養と健康を守る大変な仕事ですが、週に一度選択メニューがあり、各病棟の患者様に直接聞き取り調査に行った時、「いつもおいしい食事をありがとう」と言われることが日々の励みになっています。

サンワフーズ

安全で楽しい食事（一施設一献立）

顧問 鷹野 みどり

サンワフーズ株式会社の会長横山竹利氏は、より安全でより楽しみの持てる食の提供という志の下、昭和40年に御殿場給食センターを設立しました。順調に業績を伸ばし、現在は学校・病院・福祉施設・レストラン等、80余りの事業所と、500人を超える従業員が在籍する規模になりました。

私は現在、弊社の医療福祉部門の顧問として勤務しており、受託施設に派遣されている弊社の管理栄養士たちにアドバイスをを行い、従業員のスキルアップを図るための研修会を開催するなどの業務を担っています。業務を通じて接する管理栄養士や栄養士達は、派遣された各施設の個性に合わせ、その施設のオリジナル献立をゼロからたてています。料理からおやつにいたるまで手作りが多く、例えば施設側の要望で、コロッケはジャガイモの皮むきから始めている所もあります。禁止食は、メインの食材の他に野菜の別メニューも用意し、刻み食、とろみ食

を何種類も作るなど、きめ細かく対応しています。食事の内容だけではなく、衛生管理も非常に厳しく、現場の職員の体調に不安を感じた際は、本社や近くの事業所から、配膳に必要な要員がすぐに駆けつけ交代します。各場所の殺菌消毒が念入りに行われ、交代要員は滅菌した使い捨て衣類で全身を包み、配膳棚・床などを厚いビニールなどで覆い、本社で作られた真空調理食品・水・調理器具などを運び込みます。

以前、私が直営の病院に管理栄養士として勤務していたときには、現場の労務管理、発注やコスト計算に追われる日々でした。弊社ではこうした施設在籍の管理栄養士の負担を引き受け、他方で、弊社の管理栄養士たちによる一施設一献立の作成、調理師や調理員のその献立に沿った作業により、弊社の志である安全で楽しい食事を提供しています。患者様や入所者様、その家族の方々にもさらに喜んで頂ける美味しい食事を、食事に関わる施設職員と弊社職員全てと協力し合い、提供していきたいと考えています。

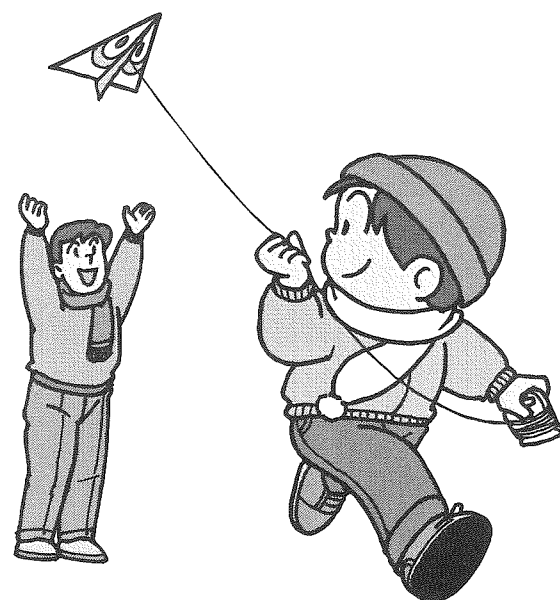
謹んで新年のお慶びを申し上げます

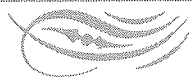
平成 25 年 元旦

公益社団法人 山梨県栄養士会 賛助会員 (順不同) 平成 25 年 1 月 1 日現在

社 名	電 話	担 当	業 務 内 容
エ コ ア 株 式 会 社	055-241-1755	相 川 秀 樹	防鼠害虫駆除
和 泉 産 業 株 式 会 社	055-222-1153	高 石 俊 二	食器、厨房機器
上 田 屋	055-266-2331	上 田 昭 雄	ソフクリーン、もずく
大 塚 製 薬 甲 府 出 張 所	055-276-8581	村 上 裕 之	ポカリスエット、ネイチャーメート
オ ギ ノ 食 糧 (株)	055-222-5181	深 沢 千恵子	給食材料
(有) オズプリンティング	055-235-6010	丸 山 健	印刷、出版、紙工
(株)三和化学研究所甲信支店	0263-36-1771	中 山 清 高	医療用食品の研究開発・販売
甲 信 食 糧 (株)	055-273-4561	鈴 木 勝 彦	食品材料卸
シ キ シ マ 醬 油 (株)	055-273-6844	小 林 秀 男	醤油、減塩調味料、ジャネフ製品
信 濃 化 学 工 業 (株)	0262-43-1115	営 業 部 上 野 清 登	食器、トレイ
(株) テンヨ武田	055-266-5251	広 瀬 潔	醤油、給食材料
(株) 日新厨房企画	055-273-3881	杉 本 哲 史	厨房企画設計管理
(株) は く ば く	0556-22-8989	長 沢 琢 美	麦の総合食品メーカー、「骨太家族」
宮 坂 醸 造 (株)	055-241-8181	中 澤 等	味噌
(株) 湊 與	055-226-3742	小 野 健 一	鮮魚、煮貝
(株) マルハチ村松	054-622-7371	森 田 新 治	鰹の素、だしの素
山 梨 ヤ ク ル ト 販 売 (株)	055-237-8960	向 山	健康科学ヤクルト
三 信 化 工 株 式 会 社	03-3539-3414	野 田 伸太郎	メラミン、ポリプロ食器
三 島 食 品 (株) 東 京 支 店	03-3317-1212	吉 岡 雄 史	フリカケ、レトルト食品
(株) エイチプラスビー・ ライフサイエンス	03-5298-8188	吉 村 眞 一	マービー、粉飴、オリゴワン
テ ル モ 株 式 会 社	0263-48-0701	伊 藤 辰 男	医療用食品の製造、販売
東 洋 羽 毛 首 都 圏 販 売 株 式 会 社 西 東 京 営 業 所	042-675-8811	晝 間 和 彦	羽毛布団
東 京 サ ラ ヤ (株) 西 東 京 出 張 所 ヘ ル ス ケ ア 部	042-660-0521	高 麗 武 男	食品衛生材料、栄養食品の製造、販売
日 清 医 療 食 品 (株) 中 部 支 店	026-269-6700	崔 田 学	給食委託業務、給食材料、濃厚流動食
株 式 会 社 岩 崎 松 本 営 業 所	0263-39-0501	石 和 利 康	食生活、栄養指導用食品模型製造、販売
味 の 素 製 薬 株 式 会 社	055-221-8581	小 林 正 人	輸液、医療用食品の研究開発、販売
株 式 会 社 ク リ ニ コ	042-590-1506	鳥谷尾 直 子	病態栄養食品の普及、販促
東 洋 シ ス テ ム サ イ エ ン ス	045-451-3191	天 野 雅 浩	給食・栄養管理及び指導ソフト「カロリーメイク」 の開発販売
(株) オ オ キ	055-273-6644	芦 澤 秀 雄	食品、環境の衛生管理、ソフト、ハードの全般
(株) ユ ウ シ シ テ ム	055-223-3085	山 口 竹 夫	福祉関係ソフトウェア開発、コンピューター機器 販売
株 式 会 社 明 治 関 東 支 社	03-3305-4351	志 村 有希子	栄養食品、乳製品製造、販売
ネスレ日本(株)ネスレヘル スサイエンスカンパニー	090-5437-5370	高 橋 功	栄養食品 (アイソカルシリーズ) 販売
株 式 会 社 フ タ バ	0256-45-7272	今 井 和 郎	けずり節・だし粉末・その他食材製造・販売
花王カスタマーマーケティ ング(株) 東京リージョン	03-6703-7556	黒 田 浩 子	花王製品の販売
カルピス株式会社東京支店	03-5722-5211	佐 藤 康 彦	飲料料品の販売
長 谷 川 化 学 工 業 株 式 会 社	047-482-1001	本 田 光 夫	まな板・ほうちょうなどの製造販売
大 陽 食 品 株 式 会 社	055-224-5415	新 津 明	業務用総合食材、老人医療用食材卸
エ コ ラ ボ 株 式 会 社	03-5285-2653	松 野 泰 明	洗浄剤、殺菌剤の製造、販売
株 式 会 社 せ ん だ い	055-262-1170	伊 藤 英 文	納豆の製造販売

社 名	電 話	担 当	業 務 内 容
カゴメ株式会社 東京支社	03-3861-7011	原 野 樹 里	飲料、調味料・パスタソースなどの製造・販売
伊 那 食 品 工 業 株 式 会 社	0265-78-1121	向 山 慎太郎	寒天及び介護食用寒天製品・家庭用食料品 (デザート等) 製造・販売
トオカツフーズ株式会社	045-564-5741	森 田 道 昌	弁当・おにぎり・サンドイッチ・惣菜・麺類などの調理済食品及び冷凍弁当・冷凍惣菜などの製造販売宅配
(株)日本食生活改善指導会 東京本部 関東事業所	042-730-8323	豊 澤 範 衛	無水鍋など調理器具の PR
(株)ベネフィットワン・ヘルスケア	03-6417-9981	井 田 章 子	特定保健指導事業・各種健康セミナー等事業
株 式 会 社 フ ァ ン デ リ ー	03-6741-5890	梶 原 哲 也	栄養士による食事の宅配・栄養相談、医療食の通信販売、栄養士のポータルサイト運営など
旭化成ファーマ株式会社	026-224-7515	長 野 営 業 所 ヘルスケア担当 渡 邊 史 乃	・医療用医薬品の製造・販売 ・ヘルスケア製品・流動食の製造・販売
株 式 会 社 お ぎ そ	0572-59-8639	塚 本 北 斗	学校・保育所・病院・福祉施設の給食用食器、リサイクル強化磁器食器の製造販売。破損した強化磁器食器の回収・リサイクル等、環境に配慮した事業活動
丸 大 食 品 株 式 会 社 中 部 特 販 営 業 課	054-623-8617	杉 本 典 昭	ハム、ウインナー、惣菜の製造販売
株 式 会 社 サ ン プ ラ ネ ッ ト 健 康 事 業 本 部	03-5978-1953	第 2 営 業 所 所 長 岡 田 守 正	食品の販売 (飴、ゼリー、特定保健用食品など)
株 式 会 社 コ ー ゲ ッ	055-260-7311 080-3472-9586	山 梨 営 業 所 加 藤 良	冷凍食品・食材関連品の卸販売業務
生活協同組合バルシステム山梨	055-243-6327	原 田 芳 江	食品・家庭用品等の販売
味の素冷凍食品株式会社	03-5798-8653	地 濃 雅 実	冷凍食品の研究開発・製造・販売
ホシザキ東京株式会社山梨支店	055-237-7126	宮 下 正 一	業務用厨房機器の販売及びアフターサービス
サンワフーズ株式会社	0550-83-1122	齊 藤 猛	病院・老健施設給食、社員食堂・レストラン等





事務局からのお願い



◎平成25年度 会費の納入のお願い

自動振込みの手続きをとられていない会員は、平成25年3月29日(金)までに納入をお願いします。

☆銀行の指定口座

山梨中央銀行甲府駅前支店
(普通) 287296
(公益社団法人) 山梨県栄養士会

振込み手数料	(ATM) (窓口扱)	
山梨中央銀行甲府駅前支店からの場合	105 円	105 円
山梨中央銀行本店・他支店からの場合	105 円	315 円

☆ゆうちょ銀行の払込み先

口座 10890 - 11752671
(公益社団法人) 山梨県栄養士会

払込み手数料

通帳から払込み(窓口扱)	140 円
通帳から払込み(ATM 扱)	無 料
現金を窓口で払込み	525 円

◎平成25年度 正会員会員証について

平成24年度より会員証は、5年更新のカード形式となっております。(平成24年～28年まで有効)

そのため、平成25年度より平成28年度まで、会員証の送付はありませんので、ご了承ください。なお、紛失の場合は有料(1,000円)にて再発行いたします。

また、会費の領収書は通帳記帳、コンビニ

払込受領証等により代えさせていただいておりますが、必要な場合は、事務局までご連絡ください。

会 費

日本栄養士会費	6,500 円
山梨県栄養士会費	7,500 円
連盟会費	2,000 円(連盟の口座)

◎毎年の会費の納入は自動引落しをお願いします。

(毎年4月10日に引落します)

自動引落とし手続きは山梨中央銀行本・支店、又はゆうちょ銀行で自動払込利用申込を行なって下さい。手続きには、通帳と印鑑が必要です。

振替指定口座(中銀)または払込み先(郵貯)は、上記の会費振込先のそれぞれの口座です。

引落とし手数料

山梨中央銀行	105 円	預金口座振替以来 (自動会計サービス)
ゆうちょ銀行	25 円	自動払込利用申込

◎会員登録事項の変更は早めにご連絡を!

- ・住所が変わった時・・・
- ・勤務先が変わったとき・・・
- ・結婚等で姓が変わったとき・・・
- ・県外に引越しのとき ⇒ <転出届>
- ・退会のとき ⇒ <退会届>

◆これらの変更があったときは、必ず、県栄養士会へご連絡をお願いします。

事務局の年末・年始について

平成24年12月29日(土)～平成25年1月6日(日)までお休みとなります。

編 集 後 記

明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

この「栄養やまなし」を手にした印象はいかがですか。皆様からのご意見をお待ちしております。

今回の「栄養やまなし」には、懸賞付きクイズがありますので細かくチェックをしてみてください。

今後も、私共管理栄養士・栄養士の資質の向上に努めましょう。

編集委員一同

◎編集委員

田草川憲男、遊佐 渚、半田裕子
三浦ちせ、塚原順子、天野江津子
古屋宏美、吉原京子、三上順子



栄養やまなしNo.96 平成25年1月1日

発行所 公益社団法人山梨県栄養士会

〒400-0805 甲府市酒折1丁目1-11 日星ビル4階

TEL/FAX 055-222-8593

ホームページアドレス <http://www.eiyouyamanashi.com/>

メールアドレス yamaei@eps4.comlink.ne.jp

印刷所 (有)オズプリンティング

◆山梨県栄養士会 HP の会員ページへの入り方 ユーザー名:yamaei ・パスワード:1985fukayama